



## 平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年1月30日

上場取引所 東 名

上場会社名 アイカ工業株式会社  
コード番号 4206 URL <http://www.aica.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小野 勇治

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役財務統括部長 (氏名) 百々 聡

TEL 052-409-8261

四半期報告書提出予定日 平成29年2月7日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	110,053	1.7	13,557	16.9	13,841	15.8	8,441	17.3
28年3月期第3四半期	108,167	3.6	11,594	6.0	11,949	3.8	7,194	△6.2

(注)包括利益 29年3月期第3四半期 6,259百万円 (4.9%) 28年3月期第3四半期 5,967百万円 (△39.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	129.29	129.23
28年3月期第3四半期	110.21	110.13

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第3四半期	155,309	114,249	70.9
28年3月期	153,434	112,501	70.4

(参考)自己資本 29年3月期第3四半期 110,083百万円 28年3月期 107,994百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	21.00	—	25.00	46.00
29年3月期	—	38.00	—		
29年3月期(予想)				42.00	80.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

29年3月期第2四半期末配当金の内訳 普通配当22円00銭 記念配当16円00銭  
29年3月期(予想)期末配当金の内訳 普通配当26円00銭 記念配当16円00銭

### 3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	152,000	1.3	17,800	10.0	18,000	10.1	10,800	8.4	165.42

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

詳細は、添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は添付資料P.3「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項(1)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年3月期3Q	67,590,664 株	28年3月期	67,590,664 株
② 期末自己株式数	29年3月期3Q	2,303,652 株	28年3月期	2,303,153 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年3月期3Q	65,287,232 株	28年3月期3Q	65,277,569 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間の当社グループを取り巻く経営環境は、日本国内においては、英国のEU離脱問題や米国の新政権への移行などにより為替が乱高下するなど先行きが不透明な状況が続いたものの、全体としては雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調で推移しました。一方、アジア・オセアニア経済は、中国ではインフラ投資などの政策効果によって下げ止まりが見られたものの、インドや一部のASEAN諸国では内需に弱さが見られ、全体としては緩やかな減速が続いております。

国内建設市場におきましては、住宅ローン金利の低下や政府による住宅取得支援策等により住宅着工は堅調に推移しました。非住宅関連は、店舗・事務所を中心に着工面積が減少しましたが、倉庫や宿泊施設の市場拡大に支えられ全体としては持ち直しの動きが見られました。

このような経営環境の下、当社グループは、医療・介護施設をはじめとする非住宅市場及びリフォームなどの成長分野に対する営業活動の強化、アイカ・アジア・パシフィック・ホールディング社及びその子会社とのシナジーの追求、アジア地域におけるメラミン化粧板販売の強化、機能材料事業の強化などを推進いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高110,053百万円（前年同四半期比1.7%増）、営業利益13,557百万円（前年同四半期比16.9%増）、経常利益13,841百万円（前年同四半期比15.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益8,441百万円（前年同四半期比17.3%増）となりました。

セグメントの業績を示すと次の通りであります。なお、セグメント間の内部売上は除いております。

#### (化成品セグメント)

国内の接着剤系商品は、木工・家具向け汎用接着剤、合板用接着剤が好調に推移したことに加え、2015年9月より連結業績に組み入れたアイカSDKフェノール株式会社が寄与し、売上は前年を上回りました。一方、海外の接着剤系商品においては、アイカ・アジア・パシフィック・ホールディング社の子会社が、アジア太平洋地域における接着剤・繊維板用樹脂の需要を取り込み販売数量を増やすことができたものの、原材料安による売価低下や為替換算レートの影響により売上は前年を下回りました。その結果、接着剤系商品全体としても前年を下回りました。

建設樹脂系商品は、改修市場への積極的な展開を進めた塗床材「ジョリエース」や、HACCP導入義務化に対応する高耐久塗床材「アイカピュール」が好調に推移しましたが、新築住宅向けの外装・内装仕上塗材「ジョリパット」が低迷した結果、全体としては前年を下回りました。

非建築分野への取り組みとして注力している機能材料事業につきましては、有機微粒子や自動車向け接着剤が順調に推移し前年を上回りました。

このような結果、売上高は55,128百万円（前年同四半期比2.8%減）となりました。一方、コストダウンや原材料、燃料の価格低下等により、営業利益（配賦不能営業費用控除前）は4,830百万円（前年同四半期比19.1%増）となりました。

#### (建築材セグメント)

国内市場では、店舗や医療・介護施設などの新築需要が低調に推移した結果、汎用的な化粧板・化粧ボードは低調に推移しました。その中で、学校やオフィスビルなどの改修や、インバウンド需要によるホテルの新築・改修は堅調に推移し、メラミン化粧板周辺領域への展開として注力している粘着剤付化粧フィルム「オルティノ」や不燃ボードは好調に推移しました。加えて、2015年10月より連結業績に組み入れたアイカテック建材株式会社が寄与し、全体としては前年を上回りました。

一方、海外市場においては、インドネシア、シンガポールを中心に化粧板の販売量を増やしましたが、為替換算レートの影響により売上としては前年を下回りました。

このような結果、売上高は27,117百万円（前年同四半期比8.6%増）、営業利益（配賦不能営業費用控除前）は5,947百万円（前年同四半期比20.3%増）となりました。

（住器建材セグメント）

不燃化粧材「セラルール」は、住宅向けキッチンパネル用途、教育施設、公共施設向けの壁用途で好調に推移しました。メラミン化粧板を加工したポストフォーム・カウンター商品は、集合住宅向けのキッチン扉や、戸建住宅や集合住宅向けのキッチン対面カウンター「バリューエッジカウンター」、天然水晶を原材料にした高級人造石「フィオレストーン」を中心に売上を伸ばすことができました。ドア・インテリア建材は、戸建住宅向け建具全体としては前年を下回りましたが、メラミン化粧板の特性を活かした「メラフュージョンシリーズ」は売上を伸ばすことができました。また、医療・介護施設向け機能引戸「U.D.（ユニバーサルデザイン）コンフォートシリーズ」は医療介護施設の新築着工減少の影響を受け前年を下回りました。

このような結果、売上高は27,807百万円（前年同四半期比5.0%増）、営業利益（配賦不能営業費用控除前）は4,547百万円（前年同四半期比11.1%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末に比べ1,874百万円（1.2%）増加し、155,309百万円となりました。主な資産の増減は「現金及び預金」が4,284百万円、投資その他の資産の「その他」が1,023百万円増加したことと、有形固定資産が1,934百万円、無形固定資産の「のれん」が1,278百万円減少したことなどによるものであります。

負債は前連結会計年度末に比べ126百万円（0.3%）増加し、41,059百万円となりました。主な負債の増減は、流動負債の「その他」が955百万円増加したこと、「賞与引当金」が720百万円減少したことなどによるものであります。

純資産は前連結会計年度末に比べ1,748百万円（1.6%）増加し、114,249百万円となりました。主な増減は「親会社株主に帰属する四半期純利益」8,441百万円、剰余金の配当4,113百万円により、「利益剰余金」が4,328百万円増加したことなどによるものであります。

これらの結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ0.5ポイント増加し、70.9%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間の業績を踏まえ、平成28年10月27日に公表した業績予想を上回る見込みであることから下記の通り修正いたします。

平成29年3月期 通期連結業績予想数値の修正（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
前回発表予想(A)	152,000	17,500	17,500	10,500
今回修正予想(B)	152,000	17,800	18,000	10,800
増減額(B-A)	-	300	500	300
増減率(%)	-	1.7	2.9	2.9
前期実績 (平成28年3月期)	150,061	16,184	16,352	9,962

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

（平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用）

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を第1四半期連結会計期間から適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、この変更に伴う当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響額は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	37,449	41,733
受取手形及び売掛金	49,333	49,134
商品及び製品	6,391	6,524
仕掛品	919	968
原材料及び貯蔵品	4,814	4,250
その他	4,363	4,923
貸倒引当金	△241	△225
流動資産合計	103,028	107,310
固定資産		
有形固定資産	30,472	28,537
無形固定資産		
のれん	2,792	1,513
その他	2,172	1,938
無形固定資産合計	4,965	3,452
投資その他の資産		
その他	15,002	16,026
貸倒引当金	△34	△17
投資その他の資産合計	14,968	16,008
固定資産合計	50,405	47,998
資産合計	153,434	155,309
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	20,850	20,417
電子記録債務	3,982	4,620
短期借入金	513	694
未払法人税等	2,394	1,856
賞与引当金	1,693	972
その他	5,210	6,166
流動負債合計	34,644	34,728
固定負債		
長期借入金	1,043	504
退職給付に係る負債	1,147	1,233
その他	4,098	4,593
固定負債合計	6,289	6,331
負債合計	40,933	41,059
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	9,891	9,891
資本剰余金	13,271	13,271
利益剰余金	80,618	84,946
自己株式	△2,005	△2,006
株主資本合計	101,776	106,103
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,027	4,252
繰延ヘッジ損益	△4	△6
為替換算調整勘定	3,092	△401
退職給付に係る調整累計額	103	135
その他の包括利益累計額合計	6,218	3,980
新株予約権	36	36
非支配株主持分	4,469	4,128
純資産合計	112,501	114,249
負債純資産合計	153,434	155,309

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	108,167	110,053
売上原価	78,013	76,829
売上総利益	30,154	33,224
販売費及び一般管理費	18,560	19,666
営業利益	11,594	13,557
営業外収益		
受取利息	68	88
受取配当金	286	259
その他	679	510
営業外収益合計	1,033	857
営業外費用		
支払利息	69	27
売上割引	103	113
為替差損	164	120
その他	341	312
営業外費用合計	678	574
経常利益	11,949	13,841
特別損失		
固定資産売却損	-	333
特別損失合計	-	333
税金等調整前四半期純利益	11,949	13,507
法人税、住民税及び事業税	3,626	4,236
法人税等調整額	505	192
法人税等合計	4,132	4,428
四半期純利益	7,816	9,078
非支配株主に帰属する四半期純利益	622	637
親会社株主に帰属する四半期純利益	7,194	8,441

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
四半期純利益	7,816	9,078
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	323	1,225
繰延ヘッジ損益	5	△1
為替換算調整勘定	△2,214	△4,046
退職給付に係る調整額	10	32
持分法適用会社に対する持分相当額	24	△28
その他の包括利益合計	△1,849	△2,819
四半期包括利益	5,967	6,259
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,723	6,203
非支配株主に係る四半期包括利益	243	56



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	化成品	建装材	住器建材	計		
売上高						
外部顧客への売上高	56,720	24,966	26,480	108,167	—	108,167
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,002	1,796	—	3,799	△3,799	—
計	58,723	26,763	26,480	111,967	△3,799	108,167
セグメント利益	4,057	4,944	4,091	13,093	△1,498	11,594

(注) 1 セグメント利益の調整額△1,498百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,499百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理部門(人事、総務、経理部門等)に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	化成品	建装材	住器建材	計		
売上高						
外部顧客への売上高	55,128	27,117	27,807	110,053	—	110,053
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,723	1,832	—	3,556	△3,556	—
計	56,852	28,950	27,807	113,610	△3,556	110,053
セグメント利益	4,830	5,947	4,547	15,325	△1,767	13,557

(注) 1 セグメント利益の調整額△1,767百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,768百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理部門(人事、総務、経理部門等)に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。